

## 2. 平成 20 年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」採択

### 「いわて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と知の拠点形成の推進プロジェクト」について

#### 一、プロジェクトの趣旨

岩手県内の 4 年制大学岩手大学・岩手県立大学・岩手医科大学・富士大学・盛岡大学の 5 大学が、平成 12 (2000) 年度に「いわて 5 大学学長会議」を発足させた。目的は岩手県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することで、学長会議の下に 5 つの具体的な事業を策定する会議を置いている。5 つの会議とは、「学生部長等会議」「単位互換事務担当者会議」「共同研究・研究データベース検討会議」「附属図書館長及び実務担当者会議」「情報処理関係担当者会議」である。さらにこの会議を統括する立場で、各大学から 1 名が出て「事業検討委員会」を構成している。それぞれの会議の名称が具体的な扱う内容を表しており、それぞれの領域で 5 大学が連携して進められる事業を検討している。

本プロジェクトは、この「いわて 5 大学学長会議」が母体となってさらに戦略的に事業を検討して展開しようというもので、岩手大学が中心となってプロジェクトを立案し、関連する 5 大学の協議を経て、平成 20 (2008) 年度から平成 29 (2017) 年度にわたる長期計画を策定した。そのうちの第 1 期にあたる平成 20 (2008) 年度～平成 22 (2010) 年度の部分についてが、平成 20 年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択された。

プログラムの趣旨は、国際通用性や教育の質保証など大学を取り巻く状況、低迷する大学進学率や県内就職率などの地域的課題に対応するため、いわて 5 大学学長会議参加校が連携を強化し、地域の中核を担う人材育成を目指す「いわて高等教育コンソーシアム：イーハトーブキャンパス」を設立して、取り組みを実施するというものである。その取り組みは、(1) 教育研究環境の基盤整備 (2) 教育力の向上 (3) 知の拠点形成 (4) 大学進学率の向上 (5) 地域の活性化という 5 つの事業のもとに 20 のプログラムを行うというものである。

#### 二、事業とプログラムの概要

本プロジェクトで展開する 5 つの事業と 20 のプログラムの概要は次のとおりである。

##### 〔事業 1〕 教育研究環境の基盤整備

###### ① 共通キャンパスの整備

盛岡駅西口の「アイーナ」を共通講座や各種講演会、FD や SD、高大連携事業等で活用するため、「岩手県立大学アイーナキャンパス」内に事務局機能などを整備する。

###### ② Web を活用した授業学習支援システムの導入

単位互換学生の学習環境を整備すると共に、授業支援や教員の日常型 FD 活動を支援するため、授業学習支援システム「アイアシスタント」等をコンソーシアム用にカスタマイズして導入する。

- ③いわて情報ハイウェイを活用したネットワーク構築  
岩手県の「いわて情報ハイウェイ」が5大学間で利用できるように、ネットワーク環境を整備する。
- ④遠隔講義（TV会議）システムの構築  
上記「いわて情報ハイウェイ」を利用して、リアルタイムで授業が配信できるように、遠隔講義（TV会議）システムを構築する。
- ⑤eラーニングシステムの構築  
優秀授業等の一般公開（OCW）用オンデマンド配信や、履修者限定のアクセス・管理が可能なeラーニングシステムを構築する。
- ⑥SD研修の共同実施  
SD（合宿研修会、講習会、研究会等）を共同で実施することにより、5大学の職員の能力を向上させ、教育研究環境の改善に資する。
- 〔事業2〕教育力の向上
- ⑦FD研修の共同実施  
FDの義務化に対応して、FD（合宿研修会、講習会、研究会等）を共同で実施することにより、5大学の教員の教育力を向上させ、教育改善に資する。
- ⑧地域人材育成（岩手学）講座の開設  
地域の中核を担う人材を育成するため、岩手県の伝統や文化、共生の思想、経済・産業、地域医療の動向などを総合的に学べる「岩手学」の共同講座を開設し、単位互換を促進する。
- ⑨特色ある講義の充実  
単位互換の促進に向けて、各大学がそれぞれに特色ある分野の講義を充実させる。
- ⑩学生の地域参加プロジェクトの実施  
地域の課題案件について、5大学の学生が連携して問題解決へ取り組む公募型プログラムを実施する。これにより、学生の自由な発想と組織力・行動力を養い、プロジェクト型授業等との連携を強める。
- ⑪留学生教育の充実  
留学生を対象に日本語・日本文化教育に関する個別学習用オンラインシステム教材（eラーニングコンテンツ）の開発を行う。
- ⑫教育の国際化  
「岩手と世界とのつながり」の重要性と地域づくりに対する学生自身の役割を啓発するため、多文化共生社会を目指した国際教養教育を実施する。
- 〔事業3〕知の拠点形成
- ⑬東アジアとの連携強化  
コンソーシアムの取組を総合的に紹介したビデオを多言語（中国語版や韓国語版など）で作成し、東アジアを中心とした国際連携を推進する。
- ⑭地域文化（平泉、賢治、言語など）研究の推進  
世界遺産登録を目指す平泉の文化や、新渡戸稲造、啄木や賢治、言語研究など、人文科学分野について、研究者が横断的に連携して地域文化研究を推進し、成果

を教育と地域へ還元する。

⑮地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進

自殺率減少の実現など、地域が直面するテーマについて、連携大学の得意分野を生かした研究を推進し、公開シンポジウムなどを通して学生及び県民への理解を深める。

〔事業 4〕 大学進学率の向上

⑯いわて情報ハイウェイを活用した講義の配信

「いわて情報ハイウェイ」を活用して連携大学の講義を県内の高校へ配信し、高等教育への関心を喚起することで低迷する県内大学進学率の向上に努める。

⑰共通キャンパスを活用した公開事業の実施

「アイーナ」及び「岩手県立大学アイーナキャンパス」を活用して、高大連携制度による大学の授業の聴講や、公開説明会などを開催する。

⑱拡大版ウインターセッションの実施

現在岩手県教委との連携事業として、高校生を冬休み期間中に各大学に招いてそれぞれの大学の特色を体験させる企画ウインターセッションが行われている。現行セッションは各大学へ高校生が分散するが、分散前に、大学の教育研究活動の説明を共同で行うなど、ウインターセッションを拡大実施する。

〔事業 5〕 地域の活性化

⑲スポーツユニオン、シニアカレッジ等の実施

岩手県と実施しているスーパーキッズ事業等をもとに、「スポーツユニオン」を形成してスポーツ科学センターとしての役割を担う。また、JTB と実施している「シニアカレッジ」を共同事業として位置づけ、地域発信型事業とする。

⑳生涯学習の場の提供

各大学の公開講座を共同実施し、より高度な生涯学習の場を地域住民へ提供すると共に、コンソーシアム事業についての理解を深める。

この 5 事業 20 プログラムは、次の 7 つの委員会に振り分けられて運営されている。

- I. 教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会 (①②③④⑤⑬⑭⑮)
- II. 人材育成・地域文化拠点形成プロジェクト委員会 (⑧⑨⑱)
- III. SD プロジェクト委員会 (⑥)
- IV. FD プロジェクト委員会 (⑦)
- V. 教育の国際化プロジェクト委員会 (⑩⑫⑯)
- VI. 地域の活性化プロジェクト委員会 (⑰⑲)
- VII. 地域課題解決プロジェクト委員会 (⑩⑮)

### 三、本学の取り組み

盛岡大学は、人材育成・地域文化拠点形成プロジェクト委員会と地域の活性化プロジェクト委員会の主務校を担当している。

主務校を務める二つの委員会で、平成 21 (2009) 年度に計画しているのは次の事業である。

前者は、「地域人材育成講座、特色ある講義内容の検討」「地域文化研究のグルーピ

## 盛岡大学

ング化」「単位互換実施に関する連携大学間の調整」である。

後者は、「コンソーシアムとしての公開講座内容の検討」「スポーツ健康支援システムの具体的活用（教育・研究分野）」である。

本年度から具体的な取り組みの立案と実施に移ることになる。現状においては教育研究環境の基盤整備のための設備投資が整備されつつあり、それを用いての様々なプログラムが実施される予定である。